

令和7年7月18日

世羅町長 様

申請者

団体住所 世羅郡世羅町東上原 142-3

団体名 「演劇で人づくり」せら実行委員会

代表者氏名 柳谷哲史

令和8年度世羅町元気な地域づくり応援事業プロジェクト認定申請書

つぎのとおり世羅町元気な地域づくり応援事業のプロジェクト認定を受けたいので、世羅町元気な地域づくり応援事業補助金交付要綱第5条第1項の規定により、関係書類を添えて申請します。

1. プロジェクト名称

「大妻コタカ物語」上演プロジェクト

2. 補助対象事業費

2,082,900 円

3. 目標金額（補助金交付希望額）

1,800,000 円

4. 成立金額（事業の実施に最低限必要な補助金額）

1,000,000 円

5. 添付書類

- (1) 事業計画及び収支予算書
- (2) 団体の規約又は定款
- (3) 事業位置図・事業実施場所写真
- (4) 団体の構成員名簿
- (5) 団体の決算書・総会資料
- (6) 見積書（又は設計書）
- (7) 図面

次の点について了解のうえ申請してください。了解された場合は☑してください。

☑この認定申請は、プロジェクトの実施を希望する年度の前年度に行うものです。

認定申請と同一年度にプロジェクトを実施することはできません。

☑年度はプロジェクト実施年度を記入してください。

☑この認定申請書等は、ふるさと納税の募集等のため、世羅町ホームページに公開します。

事業計画及び収支予算書

1. 申請団体の概要

①団体名	「演劇で人づくり」セウ実行委員会（略称：げきセウ）		
☒ 団体の規約又は定款を添付してください。			
②団体の代表者	柳谷哲史		
③代表者住所、連絡先	事務局連絡先（送付先） *連絡先等が異なる場合には記載してください		
☒ 代表者及び事務局の住所・連絡先は公開しません。黒塗りとします。			
④設立（発足）年月	昭和・平成・令和	7年	2月 15日
⑤構成員	会員数	15 名	うち町民 12 名
	スタッフ	3 名	
☒ 構成員名簿を添付してください。（構成員名簿は公開しません。） ☒ 5人以上で構成される団体が補助対象団体となります。 ☒ 町内に住所を有する者が構成員（会員）に複数名必要です。			
⑥設立目的・趣旨	演劇活動を通じて、自己表現力、共感力、コミュニケーション能力、チームワーク、問題解決能力などを育み、人間的成長を促進させ、地域社会の活性化のみならず、他市・他県・他国との文化交流や相互発展にも寄与することを目的とする。		
⑦主な活動分野 （特定非営利活動分野から3つ以内でチェックを入れてください）	☐ ①保健・医療・福祉 ☒ ②社会教育 ☒ ③まちづくり ☒ ④文化・芸術・スポーツ ☐ ⑤環境保全 ☐ ⑥災害救援 ☐ ⑦地域安全 ☐ ⑧人権・平和 ☐ ⑨国際協力 ☐ ⑩男女共同参画社会 ☐ ⑪子ども健全育成 ☐ ⑫情報化社会 ☐ ⑬科学技術 ☐ ⑭経済活動 ☐ ⑮職業能力開発・雇用機会拡充 ☐ ⑯消費者保護 ☐ ⑰その他（ ）		
⑧過去1～2カ年の主な活動実績、年間事業規模、今後の取組み予定	（一昨年度） 活動歴なし		
	（昨年度） 演劇で人づくりプロジェクト「星の王子さま」公演 公演日：令和7年2月28日～3月1日 会場：中央自治センター、大田自治センター、西大田自治センター 観客総動員数：450名		
	（今後の取組み予定） 今高野山・奉納ライブ（令和7年9月14日）の共催 甲山廿日えびす協力（桐朋学園の学生5人招へい、特別参加）		
☒ 新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間の主な活動実績がない場合、過去5年以内の主な活動実績などを記載してください。			

2. 事業計画

①プロジェクト名称	「大妻コタカ物語」上演プロジェクト	
☒ プロジェクト名称はふるさと納税等を募集する際にも使用するため、簡潔で分かりやすい名称としてください。		
②このプロジェクトに取り組む理由	大妻コタカ氏は、世羅町が誇る偉大な人物です。 教育を通じて女性の人生を切り拓いた彼女の精神は、まさに今、この町にこそ求められています。人口減少が進み、地域のつながりが薄れつつある今、彼女の理念を演劇という体験型の学びとして伝えることは、単なる知識の蓄積ではなく、心に響く「生きた学び」となります。 世羅町民が一体となって創り上げるこの舞台は、過去を語るためのものではありません。未来を築くための挑戦です。世代を超えて協働し、語り合い、共に表現することで、普段は交わらない人と人がつながり、「顔の見える関係」が生まれます。そしてその関係こそが、これからの地域づくりの土台になります。 この取り組みは、3年にわたる長期プロジェクトです。 「文化芸術による教育」「地域の記憶の再発見」「誇りある街づくり」「心を育てる人づくり」——それらを同時に実現する、世羅町発の新たな試みです。	
☒ 社会的背景や地域の現状を踏まえて、プロジェクトの必要性や目的など記載してください。		
③実施場所及び 効果の及ぶエリア	実施場所	せら文化センター
	効果の及ぶエリア	世羅町及び近郊の市町村
☒ 具体的な施設整備やイベントを行う場所の分かる地図・写真を添付してください。 ☒ 必ずしも町内で実施する必要はありませんが、効果が町内に及ぶことが必要です。		
④実施予定期間 及びスケジュール	令和8年4月1日 ～ 令和9年1月31日	
	4月～6月	台本製作、演劇ワークショップ、稽古
	7月～9月	情宣開始、本稽古
	10月～12月	せら文化センターで上演
	1月～2月	次回作の準備
☒ プロジェクトの実施年度は申請年度の翌年度になります。 ☒ 概ね四半期毎のスケジュールを記載してください。 ☒ 2月末までの事業完了・実績報告が必須となります。		
⑤実施内容	本プロジェクトの第1年目では、大妻コタカ氏の幼少期から、苦難を乗り越え女性教育の道を切り拓いていく軌跡を描いた舞台を創作します。 作品は、町民とともにゼロから脚本を作り、出演者・スタッフも原則として町内在住者を中心に構成します。出演者は一般公募し、総勢30～40名程度です。上演時間は80～100分を予定しています。 「地域で語り、地域で演じる」ことを理念とし、子どもから高齢者まで、世代を越えた住民が共に舞台をつくる、創造的なコミュニティの稽古場を育てます。 本格的な舞台づくりに先立ち、朗読、歌唱、楽器演奏、踊り、演技、身体表現などに優れた専門家を招き、心身の感性をひらく多彩なワークショップを段階的に開催します。 こうした表現プログラムを通して、演劇経験の有無に関わらず、誰もが創作の輪に加われる土壌を耕していきます。稽古は4月から開始し、のべ60日間です。 最終的には、2026年11月、せら文化センターのパストラルホールを3日間使用し、舞台仕込み、ゲネプロ、本公演を実施します。 単なる上演にとどまらず、「町全体が一冊の伝記を舞台で読み解く」ような体験を創出したいと考えています。	
☒ 具体的な建物、モニュメント等の施設整備内容やイベント等の開催内容などを記載してください。 ☒ プロジェクトの進め方や実施方法（活動地域・対象者）など、確実な実施ができるかも記載してください。 ☒ プロジェクトへの地域の住民・企業等の参画の度合いなど、地域を巻き込む取り組みを記載してください。		

☒ プロジェクトのアピールポイント（活動の独創性・工夫している点・熱意）なども記載してください。	
⑥プロジェクト実施翌年度以降の取組み	プロジェクトの2年目には、大妻女子大学および附属高校との共同制作を開始します。学生と世羅町の住民が世代と地域を越えて手を携え、「大妻コタカ」というひとりの女性の生涯を、共に紡ぎ直す創作活動に取り組みます。学びの場としての大学と、暮らしの場としての地域が出会い、異なる時間感覚と価値観が交差することで、作品の厚みと完成度は一層深まります。2027年度には東京都内での上演を視野に入れ、外部への発信力も高めていきます。 この協働は、学生にとっては「原点を訪ねる旅」であり、地域の記憶と歴史のなかに自らを重ねる経験となります。一方、町民にとっては、若い世代との出会いが新たな問いを呼び起こす「未来とつながる対話の時間」となり、双方向の学びと創造のプロセスが生まれます。 3年目には、プロジェクトの総仕上げとして、再び世羅町での上演を実施します。初年度・2年目の成果を基盤に、「町の物語」として再構成を行い、地域の人々が自らの言葉と記憶を舞台に反映させ、希望を灯す作品として昇華させていきます。 この3年間にわたる取り組みの目的は、地域に「物語の種」をまき、それが芽を出し、根を張り、やがて未来を照らす花となる過程を、住民とともに見届けることにあります。創作のあらゆる段階には子どもたちの参加を促し、大人たちはその芽生えを理解し、共感し、知恵と力を出し合って支えます。この営みこそが、「演劇による地域づくり」の真の醍醐味であり、世代循環型の文化創造のモデルとなります。そして5年後、10年後には、ここでの経験を胸に抱いた若者たちが、新たな街づくりの担い手として、挑戦を始めることでしょう。
☒ 整備した施設等の活用方法や、イベントや取組みなどの翌年度以降の継続性を記載してください。 ☒ 自立的な活動の継続が期待できる取組みかどうかのポイントとなります。	
⑦実施効果	このプロジェクトは、地域の教育・文化資源を未来へとつなぐ、意義ある取り組みだと捉えています。 大妻コタカ氏の生涯を舞台化することで、地域の教育史や女子教育の意義を見つめ直し、世代を超えて学び合う機会を創出します。 また、地域住民が台本作りから制作に関わることで、文化活動への参加意識が高まり、地域への誇りや人と人とのつながりが深まっています。 世羅町における観光や経済への波及効果も期待でき、地方創生のモデルケースとなる可能性も秘めています。 さらに、演劇という表現を通じて新たな芸術の可能性を探ることは、若い世代の人材育成にもつながります。 教育理念の再考、そして地域の未来をともに考える契機として、文化・教育・地域づくり、人づくりが有機的に結びつく、きわめて多面的なプロジェクトだと考えます。
☒ 地域の課題解決につながる効果を具体的に記載してください。 ☒ 町内の他の地域への波及効果も記載してください。 ☒ 町の魅力を町外に広く発信するなど町外への効果もあれば記載してください。 ☒ 団体等の利益が発生する場合には、地域の利益が上回ることを具体的に記載してください。	

3. 収支予算

【①支出】

区 分	内 訳	金 額
使用料	会場、冷暖房、付帯設備、オペレーター料など	252,900
使用料	稽古場となる会場の冷暖房費 500円×のべ60日	30,000
委託料	大道具、小道具、設営・撤去スタッフ費	500,000
委託料	照明機材、設営・撤去スタッフ費	200,000
委託料	音響機材、設営・撤去スタッフ費	150,000
委託料	衣装製作、履物、メイキャップ、着付け	100,000
報償費	舞台監督、照明家、音響家、衣装プランナー、美術映像プランナー、演技指導、音楽指導 50000円×7名	350,000
委託料	音楽費、楽器レンタル、著作権使用	100,000
旅費	演劇ワークショップの講師、振付家、音楽指導者等が対象 50000円×6回分	300,000
印刷製本費	チラシ5円×2000枚、チケット5円×1000枚 広報ポスターA1サイズ100円×100枚 パンフレット B5サイズ16p 200円×500部 台本印刷、資料印刷、コピー代等の小計 75000円	200,000
食糧費	会場入り後のスタッフ弁当代、飲料 20名×1000円×のべ3回	60,000
報償費	写真記録、映像記録、活動記録 30000円×2名	60,000
消耗品費	事務用品、看板等	50,000
役務費	運搬料、郵便料、広告料	80,000
合 計		(a) 2,432,900

【②収入】

(補助対象経費算出)

区 分	内 訳	金 額
参加費等	入場料1,000円×350名	(b) 350,000
補助対象経費	(a) - (b)	2,082,900

(目標金額) *目標金額は補助金申請額で、補助金の上限となる額です。

区 分	内 訳	金 額
目標金額 (補助金申請額)		1,800,000
自己資金 (会費など)		50,000
その他 (寄付、利息など)		232,900
合 計		(c) 2,082,900

(成立金額) *成立金額はプロジェクトの実施に最低限必要な金額で、下回った場合には補助金は交付しません。

区 分	内 訳	金 額
成立金額		1,000,000
自己資金 (会費など)		150,000
その他 (寄付、利息など)		932,900
合 計		(d') 2,082,900

☐参加費を徴収するイベントなどは参加費相当額を補助対象経費から除きます。ただし、参加費相当額を確認するため、支出には参加費相当額も含めた金額を記載してください。

☐「区分」の欄には、講師等謝金、旅費、印刷製本費、委託料、備品購入費などを記載してください。

☐「内訳」の欄には、収入及び支出毎の概要（積算根拠など）を記載してください。

☐金額の根拠となる書類（カタログ、見積書等）を添付してください。

☐建物の整備などの場合は、図面を添付してください。

☐目標金額、成立金額は20万円以上1000万円以下の範囲で、千円単位で記入してください。

☐ (c) と (d)・(d') は、必ず一致させてください。

☐本様式を元気な地域づくり応援事業補助金交付要綱第6条に基づく補助金交付申請の際に使用する場合は、(成立金額)の表への記入は不要です。

4. 確認事項（次の事項を確認し、☑してください）

- ☑① 元気な地域づくり応援事業補助金交付要綱ならびに元気な地域づくり応援事業補助金申請要項の内容を順守したうえで、本申請を行います。
- ☑② 「元気な地域づくり応援事業プロジェクト認定申請書」並びに添付書類の記載内容は真実であり、虚偽の内容はありません。
- ☑③ 個人情報について次の事項に同意します。
- ・申請書、変更申請書、実績報告書および添付した資料に記載されている事項は、当事業の運営に必要な範囲で、審査会委員や世羅町が取得・利用すること、また、ふるさと納税の募集や結果を公表するため、これらの情報が世羅町ホームページ等に公開され、マスコミ等一般に公開されること。
 - ・公開審査会の際に、提出された書類を基に作成した申請内容要約書を一般に配布すること。
- ☑④ 申請内容について、詳細な情報・資料を求められた場合は提供します。
- ☑⑤ 各種法令等を遵守し、申請内容を必ず実施します。申請したプロジェクトが成立したにも関わらず、事業を実施しなかった場合は、成立通知書を受け取った日の属する町の会計年度及び翌会計年度にこの補助金の申請をすることができないことを了承のうえ、申請します。
- ☑⑤ 本事業により整備した施設等の財産は適正に管理します。また、整備後5年間は、補助目的・申請内容に沿って使用します。

上記の点、確認しました。

団体住所 世羅町大字東上原142-3 番地
団体名 「演劇で人づくり」せら実行委員会
代表者氏名 柳谷哲史 印



・個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、申請者の個人情報は本事業を遂行するために必要な範囲に限定して利用します。

【自由記述】プロジェクトに対する意気込みなど、自由にご記入ください。

大妻コタカ氏は、歴史に名を刻んだ「偉人」ではありません。彼女は教育という手段を通じて、自らの人生を切り拓き、女性たちに「未来を選ぶ力」を与えた、不断の実践者であり、先駆者です。

およそ100年前、彼女が社会に向けて発した「ちゃんと勉強なさい」という一言は、単なるしつけの言葉ではありません。それは、個人が社会を変革する主体になりうるという、痛烈で普遍的なメッセージでした。その声は、現代においてもなお、私たちに問いかけ続けています。

「学ぶとは何か」「育つとは何か」「そして、変わるとは何か」と。

本プロジェクトは、コタカ氏の理念を、演劇というかたちで現代に再構築しようとする試みです。それは、舞台芸術の力を通じて、地域社会の再生に挑む、文化的実践のモデルにもなります。しかも、単発の事業ではなく、3年という歳月をかけて、地域に根を張り、共に育っていくプログラムです。

いま、私たちは少子高齢化、人口減少、地域コミュニティの脆弱化という構造的課題に直面しています。こうした困難に対し、私たちは「舞台」という手段を選びました。演じるのは、子どもから高齢者まで、世羅町に暮らす人々です。歌い、踊り、時に涙し、時に笑いながら、稽古という日常のなかに、ドラマが息づき、見えなかった“つながり”が静かに芽吹いていきます。

このプロジェクトは、単なる演劇公演ではありません。それは「私はここにいていい」と安心できる居場所であり、「まだ私に出番がある」と感じられる社会的役割の創出でもあります。つまりこれは、文化芸術を核とした「持続可能なまちづくり」への挑戦なのです。

3年後に私たちに残るのは、大きなステージ装置でも、煌びやかな拍手でもありません。それでも、おそらくこう言えるでしょう——そこにあるのは、「記憶」と「関係性」、そして「少しだけ通るようになった声」。だがそれこそが、文化という営みにおいて最も本質的な成果であり、まちづくりの確かな礎ではないでしょうか。文化は一方的に享受されるものではなく、時間をかけて共に育てるものです。人も、地域も、まったく同じです。

◎最後にチェックしてください。申請書類・添付書類に漏れはありませんか？

☒	内容（【必須】となっているものは必ず提出が必要）	公開・非公開
☒	【必須】元気な地域づくり応援事業プロジェクト認定申請書（様式第1号）	公開
☒	【必須】事業計画及び収支予算書（様式第2号）	加工公開
☒	【必須】団体の規約又は定款	公開
☒	【必須】事業位置図・事業実施場所写真	加工公開
☒	【必須】団体の構成員名簿	非公開
☒	【必須】団体の決算書・総会資料	非公開
☒	【必須】見積書（又は設計書）	非公開
☒	図面（施設整備が伴う場合は必須）	公開

*公開とされているものはホームページで公開します。加工公開とされているものは、一部加工したうえで公開します。

*著作権等のため、公開としているものも加工することがあります。

*申請者が希望された場合、非公開としているものも加工のうえ公開する場合があります。

*書類は可能な限り電子データでも提出してください。

*書類は公開審査会でコピーを配布する場合があります。